

EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2015 のご案内

日 時 : 2015 年 9 月 15 日 (火) 10:00~17:20 , 受付開始 9:30.

場 所 : JA ビル 32 階 3202・3203 会議室 (東京都千代田区大手町 1-3-1)

<http://www.zennoh.or.jp/about/group/index.html> を参照下さい. 東京メトロ大手町駅: 地下 1 階にて C2b 出口が直結, 東京メトロ竹橋駅: 4 出口から徒歩 3 分, JR 東京駅: 丸の内出口から徒歩 15 分.

参加申し込み: 下記事務局に 8 月 28 日 (金) までに電子メールにてお願いします. 申し込みをされた方には講演要旨をダウンロード(PDF)できる方法を電子メールでご案内しますので, 印刷して当日ご持参ください. なお, 会場規模の関係で, 事前申し込みの段階で定員になり次第締め切らせて頂きます. また, JA ビル入館に際して, ご所属・ご氏名の事前登録が必要な関係から, 開催当日のお申込みは原則お受けできませんので, 上記要領でお早目にお申込み下さい.

入館受付: JA ビル 1 階受付 (ゲートに向かって一番右の受付) にて, お申し込みされた所属・氏名を告げて入館用のセキュリティカードを受け取ってゲートを通過し, エレベーターにて 32 階会議室 (3202・3203) へお上がり下さい.

参加受付: 32 階会議室 (ワークショップ会場) にて受付いたします. 参加費および懇親会費 (参加される場合) を受付時に徴収させていただきますので, 予めご用意願います.

参加費等: 参加費 2,000 円 (ただし, 学生は 1,000 円), 懇親会費 4,000 円程度

懇親会: 同ビル内 B1F「手作り居酒屋 かつぼうぎ」にて 17:45 より予定しております. 参加をご希望の方は, 参加申し込み時にお申し出下さい (定員になり次第締め切らせて頂きます).

プログラム

10:00 開 会

第一部 使える統計解析

10:00~11:30 頻度データには頻度データのための統計解析手法を

田代 暢哉 (佐賀県上場営農センター)

病害防除の試験研究において取り扱うデータの大部分は質的 (頻度) データです. でも, 質的データに対して, 量的データに適用すべき統計解析法を誤用している例が多数あります. 誤用例を紹介し, 適切な解析方法を考えます.

メタアナリシスで, もっと現場で使えるエビデンス

池田 健太郎 (群馬県農業技術センター)

メタアナリシスは, 現場で使える多くのエビデンスを提供してくれます. ここでは, 技術を普及する際に必要な情報をどのように解析すればよいか, メタアナリシスにおける感度分析やオッズ比を使った方法を紹介します.

—昼食—

第二部 招待講演: 農業生産現場に活用が期待される今話題の研究

12:30~13:15 エビデンスを伝える 薬液の付着向上指導を例として —こんな方法で良かったの?

國本 佳範 (奈良県病害虫防除所)

園芸作物では, 液剤散布による害虫防除がよく行われます. 生産者の関心は薬剤の種類に向きがちですが, 害虫の生息部位へ薬液が付着しなければ高い効果は期待できません. そこで, キクやイチゴ等でのハダニ防除において, 葉裏への薬液の付着向上を目指した取り組みを行いました. その時の手法を紹介し, 理解を得られる説明とは何かを一緒に考えることにします.

13:15~14:00 圃場診断に基づくチューリップ微斑モザイク病と条斑病の防除対策

桃井 千巳 (富山県農林水産総合技術センター園芸研究所)

土壌伝染性ウイルス病害であるチューリップ微斑モザイク病と条斑病に対し, これまでにいくつかの個別防除技術が開発されています. しかし, 圃場の発生リスクに応じた防除技術の選択ができませんでした. そこで, 土壌中のウイルス量や, 個別防除技術の効果試験事例のメタアナリシスによる評価を防除法選択の根拠とした両病害の管理技術について紹介します.

14:00～14:45 農業生産現場が求める防除関連情報の見える化

宗 和弘 (JA 全農 営農販売企画部)

JA グループでは、TAC (地域農業コーディネーター) 等の出向く担当者が日々担い手農家と面談し、担い手の様々な意見・要望に真摯にお応えする取り組みを進めています。その面談の中から防除関連のものを抽出し、様々な角度から分析を加え、現場が求める防除関連情報の見える化を試みます。

14:45～15:30 宮城県におけるイネ紋枯病の効率的な防除体系

鈴木 智貴 (宮城県古川農業試験場)

イネ紋枯病は宮城県では最も発生面積の大きな病害です。本病は多くの府県で本田期の要防除水準が設定されているように、ほ場の発病状況から薬剤防除の要否を判断できます。本演題では、宮城県においてロジスティックモデルによって設定した本病防除要否の目安と、次年作における予防薬剤の処理要否の目安について紹介します。

—休憩—

第三部 ショートトーク：病害防除研究への問題提起、先進事例の速報

15:40～15:55 セルリー萎縮炭疽病の種子伝染の証明とそのエビデンスに基づく防除 (仮題)

山岸 菜穂 (長野県野菜花き試験場)

15:55～16:10 機械定植で問題になるタマネギ乾腐病対策としてのセル成型トレイへの殺菌剤灌注処理による予防効果のメタアナリシス

正司 和之 (佐賀県上場営農センター)

16:10～16:25 イネ病害防除の大規模実証試験 (仮題)

吉田 めぐみ ((独) 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター)

16:25～16:40 創薬研究とメタアナリシス ～新規殺菌剤ピカルブトラゾクスを例に～

小山 裕明 (日本曹達株式会社)

第四部 近年開発された SDHI 剤の各種特性と効果的な使用方法

16:40～17:00 新規化合物 フルキサピロキサド

山下 慶晃 (BASF ジャパン株式会社)

17:00～17:20 新規化合物 フルオピラム

波多野 広幸 (バイエルクロップサイエンス株式会社)

17:20 閉 会

問い合わせ先：研究会事務局 東京農業大学農学部植物病理学研究室 根岸寛光

(e-mail:negishi@nodai.ac.jp)

【お知らせ】

翌日の9月16日(水)は、公益社団法人報農会主催のシンポジウム「植物保護ハイビジョン-2015 シンポジウム 第30回の節目に立ってみる‘過去・現在・未来’」(場所:‘北とぴあ’つつじホール(東京都北区王子1-11-1))が、また、9月17日(木)には、一般社団法人日本植物防疫協会主催のシンポジウム「病害虫抵抗性品種開発の現状と今後の展望」(場所:日本教育会館「一ツ橋ホール」(東京都千代田区一ツ橋2-6-2))が開催されます。